

十二 児ちいのかいもちひするに空寝したる事 宇治拾遺物語卷一

これも今は昔、比叡ラ変あり用 過去の山に見ありけり。

僧たち宵のつれづれに、「いざ搔餅サ変かいちひす未 意志せむ」と言ひけるを、この児心寄せハ四いふ用

に聞きけり。カ四きく用

「さりとて、し出ださむを待ちて寝ナ下二ぬ未 打 消 婉曲 形クわるし用 強意ぬ推量ざらむもわろかりなむ」と思

ひて、片方に寄りて、寝ラ四よる用 ナ下二用 よし カ変いでく体 夕四用たる由にて出で来るを待ちけるに、すでにし出だし

たるさまにて、ひしめき合ひたり。ハ四ひしめきあふ用

この児、定めて驚かさむサ四おどろかす未 推量 現在推量ずらむと、待ちゐたるに、僧の、「もの申し候

はむ。驚かせ給へ」と言ふを、うれしとは思へども、ただ一カ四おどろく未 尊敬 ハ四たまふ命 ハ四体 形クうれし終 ハ四おもふ已

度にいらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて、今一声呼ばれていらへむハ下二いらふ未 夕四まつ用 ハ四体 ハ四よぶ未

と念じて寝たる程に、「や、な起サ変ねんず用 形クをさなし体 夕四ねいる用こし奉りそ。をさなき人は寝入り給ひに

けり」といふ声のしければ、あなわびしと思ひて、今一度起こせかすと、サ変す用 形シクわびし終 夕四おこす命

思ひ寝に聞けば、ひしひしとただ食ひに食ふ音のしければ、術なくて、無期カ四きく已 ハ四くふ体 夕四おこす命 未 夕へ 未 夕へ

の後に、「えい」といらへたりければ、僧たち笑ふ事限りなし。ハ下二いらふ用

動詞の活用 例「ハ四いふ用」||ハ行四段活用「いふ」の連用形
未然形||未 連用形||用 終止形||終 連体形||体 已然形||已 命令形||命